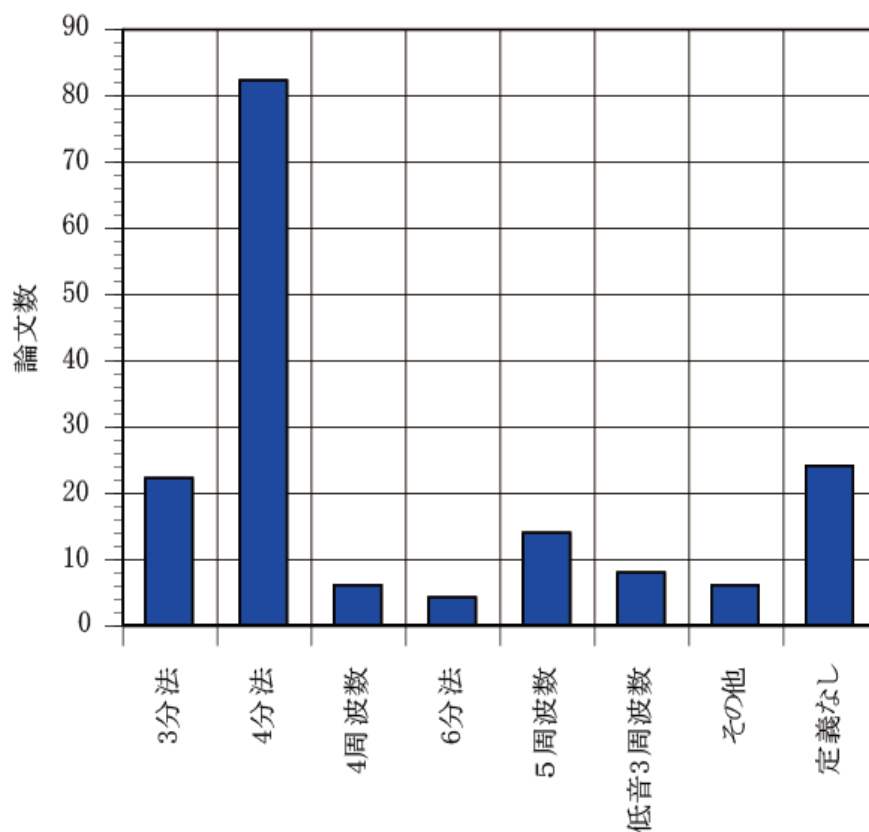


資料

1-1. 平均聴力レベルの算出方法

(1) 聴覚医学会の出版物の状況 (Audiology Japan: 2003 年—2013 年: 論説、原著)



3分法： $(500 \text{ Hz} + 1000 \text{ Hz} + 2000 \text{ Hz}) / 3$

4分法：おそらくは、 $(500 \text{ Hz} + 1000 \text{ Hz} \times 2 + 2000 \text{ Hz}) / 4$ と思われるが多くは定義なし

4周波数： $(500 \text{ Hz} + 1000 \text{ Hz} + 2000 \text{ Hz} + 4000 \text{ Hz}) / 4$

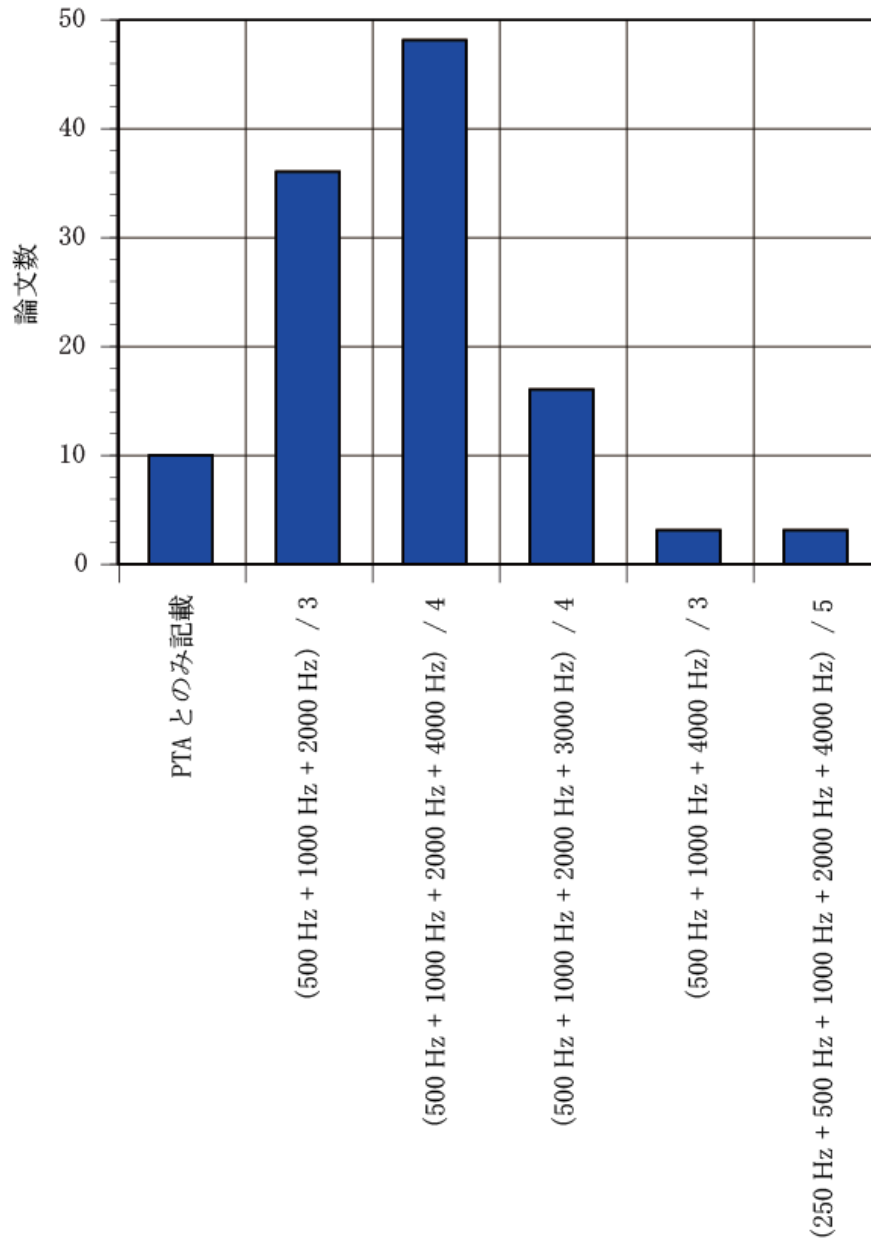
6分法： $(500 \text{ Hz} + 1000 \text{ Hz} \times 2 + 2000 \text{ Hz} \times 2 + 4000 \text{ Hz}) / 6$

5周波数： $(250 \text{ Hz} + 500 \text{ Hz} + 1000 \text{ Hz} + 2000 \text{ Hz} + 4000 \text{ Hz}) / 5$

注) 5周波数平均は、すべて突発性難聴の論文、低音3周波数平均はすべて低音障害型感音難聴の論文による。

(2) 平均聴力レベルの算出方法 英文誌の状況

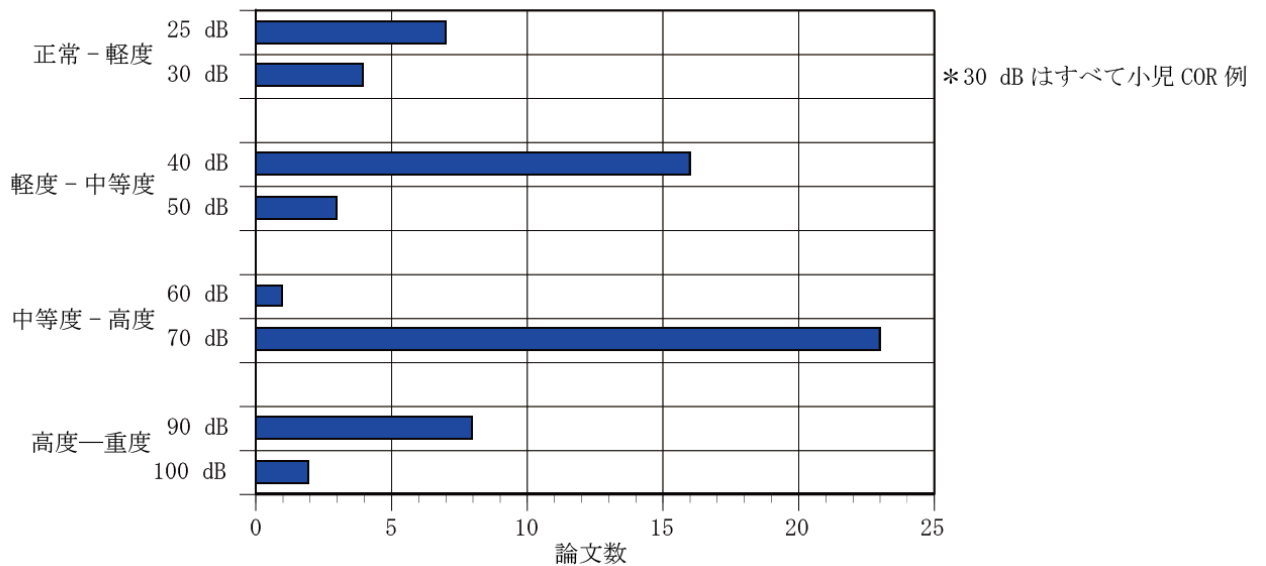
(Ear and Hearing, Int J Audiology, Otolaryngology and Neurotology 2013 年の論文)



1-2. 各難聴程度に該当する平均聴力レベルの範囲

聴覚医学会の出版物の状況 (Audiology Japan: 2003年—2013年: 論説、原著)

下図は、論文で使用された正常—軽度—中等度—高度—重度難聴の境界の値を示す。



正常—軽度—中等度—高度—重度難聴の境界

注) 文献によっては、中等度難聴のみを定義して扱ったものや、正常・軽度難聴をひとくくりに扱ったものも少なくないので、各境界の症例数は異なる。